

～織田信長サミット2009に向けて～



小牧山

戦国に馳せる

小牧近世文書研究会代表

服部正彦

第9回 小牧山城と信長 2

犬山攻め

犬山城主の織田信清は、信長の従兄弟で妹婿でもありながら、信長を嫌っていました。そんな折、美濃では、竹中半兵衛・安藤守就が稲葉山城（後の岐阜城）を奪取するクーデターが起きています。永禄7年（1564年）3月のことです。

清須から小牧山に居城を移した信長は、信清の家老の中島豊後と和田新助の二人に密使を送って寝返るよう説き、彼らを内応させました。同年8月、信長の軍勢は犬山城を囲み、始めから信長と戦う気のない商家老は防戦準備をせず、自分たちの娘を人質に和睦を願って降伏してしまいました。信清は、甲斐の武田信玄のもとに落ち延び、落髪してお伽衆に加えられたといえます。こうして信長は、犬山を無血開城させたのです。なお、犬山城攻略の年次には、異説があります。



現在の岐阜城天守閣

美濃攻め

信長は、次の攻略目標を美濃国に定めました。聖城稲葉山城を攻略するには、まず墨俣の地に拠点となる城を築くことが必要でした。そこで、永禄9年（1566年）、兵力の2/3を当てて築城に掛かるよう木下藤吉郎（後の豊臣秀吉）に命じました。

木曾の山で城造りの材木を準備し、大小長屋10棟、楼10基、塀2千間、柵5万本の材木を、9月12日の夜間に木曾川上流からいかに組んで運び込みました。昼頃には、美濃勢が盛んに鉄砲を撃ちかけてきましたが、応戦しながら馬防柵5万本を組立てました。14日には2千もの兵が攻め寄せ、死者33人を出しながらも敵を退かせ、翌15日には信長軍1、500人を迎え入れることができたのです。この墨俣一夜



イラスト：服部裕子氏

城の伝説は後の時代に作られたようですが、この出城築城の成功は、美濃攻略への大きな足がかりとなりました。

次いで信長は、美濃三人衆の安藤守就、稲葉一鉄、氏家下全に密使を送って味方に取込み、斎藤氏の勢力を大きく削ぐことに成功しました。そして永禄10年（1567年）9月、美濃に攻め込んだ信長は、稲葉山城下井の口を焼き払い、城を裸城同然としました。こうして城主の齋藤龍興は降伏し、舟で川をくだり長島（現桑名市長島町）に落ち延びました。残酷無比のようにいわれる信長も、この時は温情をみせて龍興を見逃したのです。

信長は稲葉山を岐阜と改め、多くの安堵状を寺社・町人に与えました。特に岐阜加納市場には、多くの禁令制札を発し、往來の自由や諸税免除の触を出しています。

稲葉山城陥落により、信長は広大な濃尾平野一帯を手に入れることになりました。これによって信長の政治環境にも変化が現れ、朝廷からは正親町天皇の綸旨が下り、尾張・美濃両国の禁裏御料所の多くが回復しました。この美濃入国後、信長は「天下布武」の印を用いるようになりました。

問合先

文化振興課 ☎ 76 1189